

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679100190
法人名	有限会社 ウィル
事業所名	グループホーム たんぽぽの家
所在地	鹿児島県大島郡徳之島町亀津122番地2 (電話) 0997-81-1249
自己評価作成日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームたんぽぽの家は、2ユニットあり、A棟が平成17年4月に開設、B棟が平成21年4月に開設しております。
毎月の介護に関する研修会を開催したり、在職中に資格取得を推奨することなどにより職員の資質向上に取り組んでおります。
また、徳之島徳洲会病院との訪問診療・看護体制を整え、利用者の状態の変化の際や終末期の対応など、上記病院との連携により、当施設で治療や様子観察ができる体制を整えています。
昨今は、地域住民や自治体と協力し季節にあった行事などを開催したり、地域の行事に出向くよう努め交流を深めています。
今後は地域と共に利用者を見守れるような体制を整えることを目標としています。
利用者様が家庭的な雰囲気の中、「ゆっくり、のんびり、楽しく」1日1日を過ごしていけるような支援を、職員一同取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者が安心して暮らせるように、利用者のペースに合わせた支援を行っている。
- ・職員からの提案で毎月のミーティングの時に個々の利用者のケアの支援方法や業務引き継ぎ時は利用者に目が届かなくなる為、食事時間に合わせてミーティングをする等、日々の業務の中で利用者との関わりや支援を最優先にしている。
- ・事業所として看取り支援を行っており、希望する家族もいる。事業所の主治医である医師も家族と話し合い、職員も重度化や終末期に向けた研修を行い、利用者の状況に応じて24時間の見守り体制の支援を行っている。
- ・個々の排泄チェック表で時間を見てトイレ誘導を行っている。布パンツの利用者やリハビリパンツの利用者は自立しており、声かけのみの対応で排泄ができています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は理念を踏まえた支援を行えるよう心掛け、利用者が家庭的な雰囲気の中それぞれにあった介護を受ける。	理念はホール等の2ヶ所に掲示し、個々の職員が理念を基に、利用者が落ち着いて安心して生活ができるように利用者のペースに合わせた支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣商業施設に利用者とともに定期的に出向き、挨拶や会話をしながら馴染みの関係を築けている。	利用者は地元地区の敬老会等の行事に参加している。小・中・高校生や介護職を目指している学生は体験学習で訪問している。就労支援の生徒達の体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	近隣住民参加の行事を行い、G・Hの理解を持てるような取り組みを実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営会議の開催を実施。メンバーは近隣住民、地区代表や民生委員を交えて行い、そこでの意見を取り入れた施設の運営を行っている。	運営推進会議で利用者が重度化した時や看取りに対する課題などを話し合っている。利用者の社会的参加の為、廃材を利用して製品が作れないか等の提案も出されたり、集落の行事の案内もあり、会議で出された意見等をサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営会議やそれ以外でも個別の相談事の連絡を行い、協力関係を築けるように取り組んでいる。	困難な事例の場合は役所に出向いて相談したり、緊急の時は電話で適切なアドバイスを受けている。役所主催の研修会に職員が交代で参加できるように業務を変更する等、協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修会を定期的に行い、職員に周知徹底している。日中は玄関の施錠などはしておらず、自由に出入りできるようにしている。	身体拘束をしないケアのマニュアルがある。身体的拘束や言葉による拘束について研修をしている。玄関は夕方に施錠している。夕方になると落ち着かない利用者には時期的に、職員が付き添って畑に出かける等の支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、精神的虐待についての研修を行っており、職員に周知徹底している。また、言葉遣いなど虐待になり得ることも注意して介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、権利擁護に関する研修を受講し、それをミーティングや研修会などを通して他の職員に周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時の契約等の確認を家族と行い、必要ならばその都度、家族との話し合いの機会を設けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族がホームに来られた際に、職員や管理者から家族からの要望を聞き出すような声掛けを行っている。遠方の方にはSNS等の手段を使用し要望を受信できるように取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族等が要望を気軽に話せる雰囲気を作れるよう努力している。面会で訪れる家族が多く、来所した際に職員と話し合ったり、ラインや電話で連携を取って、運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回、全職員が会する研修会（ミーティング）を設けており、その場で意見や話し合いを行う。また、同研修報告書にて意見を記述する欄も設けており、意見があれば積極的に取り入れ反映させている。</p>	<p>毎月のミーティング時に利用者の支援方法を話し合ったり、業務引き継ぎの時間を食事時間に合わせて行う等、提案が多く寄せられ、日々の業務に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	職員は勤務年数によって昇給が見込める。また、職員の資格取得に対する補助規程などがあり、資格取得を推奨している。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	月1回、施設内で職員向けに研修会を実施している。また外部の研修会についても周知し参加を促している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に属しており、同会の実施する交換研修などにも参加するなどの取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所初期は、利用者は環境の変化により精神的に不安定になっているので、親身になり新たな関係作りができるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所初期は特に気を配りながら、新たな関係づくりに取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前に、本人・家族、関係していたケアマネや近隣住民から情報収集し、入所前の準備を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理手伝いや、洗濯物干し・取り込み・たたむこと、日課を手伝ってもらうことに、その都度感謝の言葉かけを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の際には、利用者のそれまでの生活歴や家族構成・性格・好きなこと苦手なことを聞き出すように努めています。いつでも面会に来てくださいとの声掛けも随時行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が見たいという方には自宅までドライブ。なじみの美容室への送り向かい。ご兄弟との定期的な面会等、各人にとって必要な支援を行っている。	職員が同行し車イスで自宅訪問をしている。家族のアルバムを毎日眺めたり、友人や馴染みの人が来訪し喜んでいる。家族が利用者と一緒に買い物に出かけたり、外泊や食事外出などを楽しんでいる。電話を掛けるなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合わない利用者同士にも、職員がフォローを入れることにより、良い関係を保てるよう気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や支援を継続して行っており、また、退所された利用者について、本人やご家族を見かけたら、声をかけるなどして現在の状態を聞くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各職員で気づいた点や利用者の要望をその都度記録に残し、そこから情報を得ている。	利用者が何時もより動きが違う時に利用者に話掛け、思いを把握している。利用者が普段と違って元気がない時なども、ふれあう時間を多くとり、よりそいながら思いを聞いている。意向の把握が困難な場合は家族とも相談し本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、ご家族や担当ケアマネから情報をもらい、性格・ADL・生活歴・趣味嗜好を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の利用者の体調を把握し、職員同士で1日をどう過ごしてもらうか共通認識を持っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおまかなプランはあるが、24時間365日共に生活しているので、それにとらわれないよう、その都度接し方・病院受診依頼を職員で把握し、実施している。	毎月のミーティング時に職員から利用者の状況を把握し、主治医の意見を基に訪問看護師・家族などからも聞き取りを行い介護計画を作成している。介護日誌から状況の変化を把握し、利用者に対応する計画書をその都度作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日各利用者の様子や言動を記録する時間を設けており、職員間での情報交換も行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>職員も利用者の機嫌や体調に合わせて、その日・その時で柔軟に適した援助を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>馴染みのお店への買い物・ドライブ、ホーム外へ出ることの楽しさを設けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者及び家族より同意を得て、医療連携している徳之島徳洲会病院からの訪問看護・診療を受け入れている。</p>	<p>入居前からの主治医の受診を支援している。事業所が医療連携している医療機関での受診も支援している。歯科や耳鼻科の場合は医師が事業所に来て対応し、家族への結果報告をしている。毎月1回の訪問診療も受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>徳洲会病院の訪問看護部と密に連携を取っており、相談や、定期の訪問、急変時や終末期などの対応などもお願いしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際には利用者のADL・認知状態の情報提供を医療機関へ行っている。退院の際は日程や病院での状態変化などの情報を逐一得て、再入所の体制を整えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や看取りについての指針を設けており、入所の際にご家族へ説明し同意を得ている。連携病院と密に連絡を取り、重度化した場合や看取りを受け入れる体制を整えている。</p>	<p>看取りについての説明の段階で希望する利用者や家族がいる。看取り支援の事例がある。家族の協力がある。医師も家族と話し合い納得して支援している。利用者の状況次第で24時間の見守り体制の支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時は連携病院の訪問看護部にすぐに連絡をとり支持をあくようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年に2度実行している。運営会議に近隣住民の方も参加し避難時の協力も承諾を得ている。</p>	<p>事業所として火災避難訓練を消防署立ち会いのもと、年に2回実施しており、夜間想定での訓練も行っている。遠方の職員に対しての体制も配慮している。台風や災害に備えて、米・水等がある。オムツや暖を取る為の毛布なども準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する敬意を持ち、失敗ごとや尿失禁にもさりげない声かけを行い、本人や他利用者の気分を害さないような対応を常に心がけている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保のために月1回のミーティング時に話し合っている。年間計画も作成している。職員の利用者に対する不適切な対応の場合は職員がアドバイスをしたり、管理者が指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・レクリエーション・トイレ誘導の際も本人に声掛けを行い同意を得てから一緒に行くなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日も取決めることなく柔軟に対応している。レクリエーションや歌遊び等も無理強いせずに行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服も本人のなじみの物を持ってきてもらっている。装いの好みも把握し、その人らしい格好、好みの恰好を優先している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員・利用者は昼・夕食とも同じテーブル・同じメニューを食べることにより、好き嫌い・何が食べたいかを聞いている。下膳が出来る利用者には、お願いしている。	食材の皮むきや調理の手伝い、お盆拭き等、職員との会話を楽しみながら食事の準備を個々の力量に応じてしている。地域の方からの野菜の差し入れなどがあり、調理前に利用者に見せてジャガイモの調理方法等を聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食・刻み食・エンシュアリキッドを利用者の食事の摂取量や好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや入歯洗浄を行い、口腔内の清潔を保てるように支援を行っている。必要な利用者には歯科医による訪問診療・口腔マッサージも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の状態に応じてオムツ・下着、パッドを日中・夜間で使い分けて使用している。必要な方には排泄チェックをつけ、時間にてトイレへの声掛け・誘導を行っている。	個々の排泄チェック表で時間を見て声をかけトイレ誘導を行っている。布パンツやリハビリパンツの利用者が多く、自立しており声かけのみの対応で排泄ができています。排泄の要望を言える利用者もいる。個々の室内にポータブルトイレを設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをつけ、便秘の長期化には気を付けている。腹部のマッサージを行うなど、なるべく下剤は服用しないような支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は定めておらず、約2日間隔を目安に入浴を行うようにしている。入浴の希望がある利用者には、できるだけ希望に沿うような支援を行っている。	利用者に声かけして入浴が楽しめる様支援しており、湯温度を調節して、個々に応じた支援をしている。整髪剤や椿油などを使って楽しんでいる。拒否する利用者には、言葉かけや時間・入浴日を変える工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や食事時間にも幅を持ち、各利用者の体調や習慣に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で服薬管理を行ってます。薬の変更時には、申し送りや掲示板を使い、注意事項を職員全員で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>歌が好きな利用者とは一緒に歌い、話が好きな利用者とはできるだけ話をしたり、それぞれの利用者の好みを理解し、日々を楽しく過ごせるよう支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>美容室に行きたい・親戚宅へ行きたい・自宅が見たい。どこか外へ行きたい。外泊したい。さまざまな希望を叶えられるように、職員同士で連携を取りながら自由な外出を実施している。</p>	<p>職員が同行して外出したり、知人と一緒に買い物に出かける利用者もいる。外出を殆ど控えている利用者もあり、職員と一緒に事業所の近くを散歩する等、日常的に外出ができるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額ではあるが、手元にお金が無いと不安という利用者にはご家族の許可を得て、少額のお小遣いを持たせている。利用者同士で近くのコンビニへ買い物に行かれる方もいらっしゃる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を所有している利用者もあり、また本人が希望すればご家族へ電話を繋いだりしている。また、ご家族からの電話もいつでも受付けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	騒音や他の刺激には常に配慮しており、本人たちが心地よく過ごせる環境づくりに努めている。玄関や庭には季節の花を飾り、楽しめるように配慮している。	共用の場はソファが設置されており、利用者が会話を楽しんだり、畳間があり洗濯物をたたんだりしている。壁には行事で楽しんでいる利用者の写真が展示しており、写真を見ながら友達や家族と会話したり笑顔になる利用者もいる。玄関の入口やホールには季節が感じられるような花が飾られ居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者の性格や身体状況を把握し、状況に応じた対応をしています。レクリエーションや歌遊びも皆に声掛けをし、無理強いをせず楽しめる時間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に、なじみの物を持ってきていただくようお願いしている。入所してからも職員で本人が落ち着けるような部屋作りを行っている。	居室には自宅からタンスや仏壇を持ち込み、毎朝手を合わせている利用者や自宅で使用していたテレビで歌やドラマを楽しんでいる利用者もいる。好みの洋服を持ち込み眺めている利用者など、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には大きく名前を取り付けている。足元には十分に気を付けながら、毎日清掃を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない